

2020年8月7日

この春の大学卒業生を対象とした、全国調査結果のご報告

大学生 教育の質を評価せず

～「教育の質が高い」はわずか5割～

(株)応用社会心理学研究所（アспект）では、2020年3月に、全国の大学 学部卒業生（有効回答数1142名）を対象に、学生視点による大学の「価値」、大学教育のリアリティを測定する調査を実施しました。

これまで大学生を対象とした学生調査は様々な機関で実施されていますが、学生の「満足度」を調査するものがほとんどです。しかし、今後のあるべき教育を考えるにあたって、「満足度」を指標にすることは果たして適切なのでしょうか？学生をお客様でなく、大学が目指す教育を実現するメンバーの1人として捉えるならば、学生「満足度」よりもむしろ「コミットメント」や「納得」が重要になると考えられます。

このような問題意識のもと、今回、大学に対する学生の「コミットメント」「納得」、彼らが感じる「大学の価値」にフォーカスした大規模調査を行いました。本調査は、(株)応用社会心理学研究所が行ってきた大学評価モデルやキャリア形成の知見を活用し、今後の大学教育のあるべき姿を探るための本質的な要因や構造を明らかにできるように設計されています。

コロナ禍で教育も大きな変革が求められる中、本調査の学生視点による「価値」の測定によって、大学教育に内在する本質的な問題点が明らかになったと考えられます。以下に調査結果の概要をご報告させていただきます。

調査結果のポイント

1) 8割以上が「学生生活は楽しかった」「充実していた」。学生生活については高い評価。

- ・「学生生活は楽しかった」と回答した比率は81.6%、「学生生活は充実していた」は80.0% と共に高い評価。「友人との関係」「時間のゆとり」「クラブサークル」が学生時代の楽しさを支えている。

2) 卒業後の進路についても評価は高く、8割が「進路や就職先に満足」。

- ・「卒業後の進路や就職先に満足している」と答えた人が77.9%と高い評価。

3) 本来、大学に求められるべき「教育」に対する評価は低く、2人に1人しか大学の教育を評価せず。

- ・卒業校が「教育の質が高い」と思う人が50.1%、「授業の進め方・教え方が良かった」との回答が52.4%と、ともに半数しかおらず、学生生活や進路への満足度に比べ、大学の教育に対する評価は極めて低い。

4) 学びへのモチベーションやコミットメントは不十分。 「やる気のある学生が多い」はわずか4割。時間やルールも守らず。

- ・周りに「やる気のある学生が多かった」という人は42.0%しかおらず、「学生が時間やルールを守っていた」との回答も45.1%と、いずれも半数以下。

5) 社会と連携した教育についても納得していない。 「企業と連携した取り組み」を評価する人は4割に満たず。

- ・「インターンシップや企業と連携した取り組み」を評価する人は4割に満たず、「社会で役立つような実践的なカリキュラム」を受けられた人も約5割にとどまる。

6) 大学不適應を起こしていた人も相当数いる。5人に1人が「辞めようと思うことがあった」。

- ・「大学の友人やクラスの雰囲気が出なかった」が30.1%、「学校を辞めようと思うことがあった」が21.7%おり、大学不適應については見過ごせない問題である。

7) 大学の教育方針に対する理解や共感、まだまだ十分とは言えない。

- ・「大学の方針・理念に共感できる」が54.2%、3つのポリシーを「知っている」が4割前後とまだまだ浸透していない。

■ ■ 調査概要 ■ ■

- ◆名称 : 大学／大学生活についてのアンケート調査
- ◆調査方法 : インターネットリサーチ
(インターネットリサーチ会社 クロス・マーケティングに登録するモニターを利用)
- ◆調査期間 : 2020年3月
- ◆調査対象者 : 2020年3月卒業の大学学部生(4年制大学 ※医・歯・薬・獣医など6年制の学部生を含む)
回収数1251人 うち有効回答数1142人※ (334大学)

※精度の高いデータ分析を実施するために、1251人の回収データから回答矛盾や不真面目な回答サンプルを除去するデータクリーニングを実施、有効な回答と認められた1142人を分析対象とした。分析対象を「令和元年度学校基本調査」(文部科学省)の分野別卒業生比率に合わせてサンプルに重みづけ(ウェイトバック集計)を行い、分野の偏りを是正した。

なお、単位未満で四捨五入しておりますので、内訳の計と「全体」とは必ずしも一致しません。

- ◆本調査の意義 : ・学生視点による大学教育の価値、大学教育のリアリティを測定
・「満足度」ではなく、「コミットメント」「納得」を測定
・(株)応用社会心理学研究所が20年以上にわたり行ってきた大学評価モデルやキャリア形成の知見を活用し、本質的な要因や構造に迫るよう設計
- ◆主な調査項目 : ・大学へのコミットメント
・教育に対する充実・納得度
・3つのポリシーの理解・浸透度
・進路に対する納得度
・大学への適応・不適応
・職業意識の醸成
・得られた経験・体験や身につけられたスキル
・大学の授業、設備、先生、支援などに対する個別の評価 など

- ◆調査企画 : (株)応用社会心理学研究所(アспект)

1987年に日本社会心理学会理事長(当時)の廣田君美を代表に社会心理学者が集まり設立されたシンクタンクです。大手企業や学校法人のマーケティング活動や組織運営にかかわり、社会心理学を応用した独自のノウハウを提供することで、他社では解決できなかった課題を解決しています。
学校事業分野では、募集マーケティング、ブランディング、キャリア教育等の研究・実践を行っており、中でも学校評価モデルやキャリア形成研究については、20年以上の実績があります。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 応用社会心理学研究所(アспект)

担当: 小西(こにし)、古谷(ふるや)、
〒540-0031 大阪市中央区北浜東1-8 北浜東森田ビル5F
TEL: 06-6941-2171 FAX: 06-6941-2081
mail: valuablecollege@aspect-net.co.jp URL: <https://value-daigaku.com/>



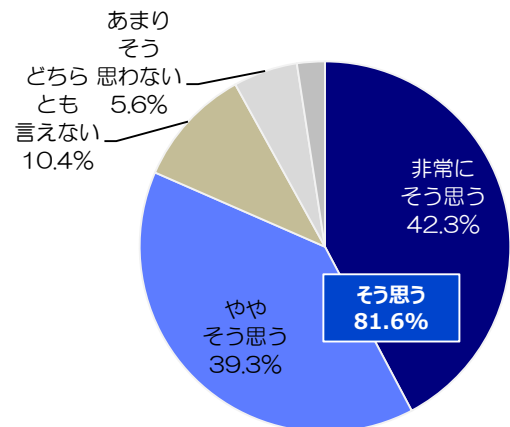
学生生活についての満足度

8割以上が、「学生生活は楽しかった」「充実していた」。
学生生活については高い評価。

- ・大学での学生生活について、「学生生活は楽しかった」という項目に対して、「非常にそう思う」「ややそう思う」という回答を合計すると、81.6%と高い評価。
- ・同様に、「学生生活は充実していた」との回答も80.0%に上り、多くの人が楽しく充実した学生生活を送っていたように思われる。

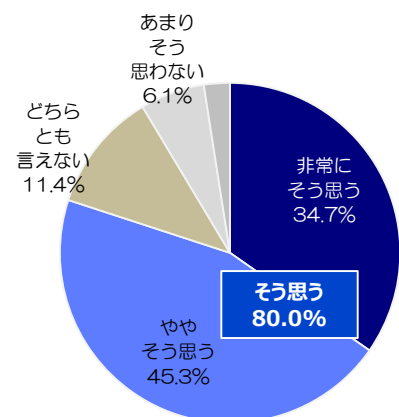
■大学での学生生活：学生生活は楽しかった【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	483	42.3
ややそう思う	449	39.3
どちらとも言えない	119	10.4
あまりそう思わない	64	5.6
まったくそう思わない	28	2.4
全体	1142	100.0



■大学での学生生活：学生生活は充実していた【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	396	34.7
ややそう思う	517	45.3
どちらとも言えない	130	11.4
あまりそう思わない	70	6.1
まったくそう思わない	28	2.5
全体	1142	100.0



※グラフ中、5%未満は非表示

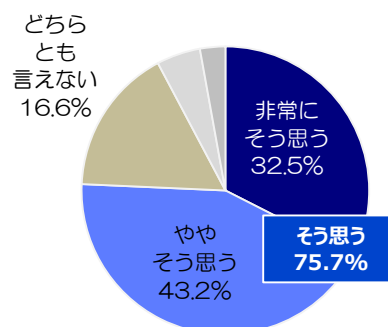
学生生活についての満足度

「友人との関係」「時間のゆとり」「クラブサークル」に満足。 学生生活の楽しさを支えている。

- ・ 学生生活の様子について、大学での過ごし方について聞いたところ、8割近くが「友人との関係は良好だった」と回答。
- ・ その他、「時間にゆとりがあった」「課外活動・クラブサークルが充実していた」がともに6割を超え、これらが学生生活の楽しさを支えているものと思われる。

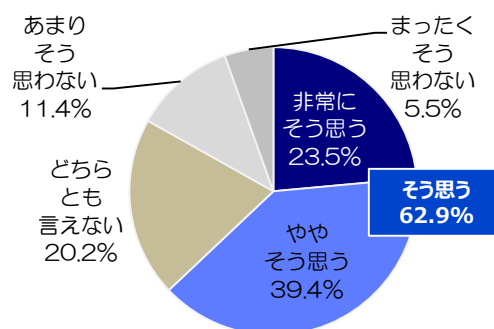
■ 大学での環境や、過ごし方： 友人との関係は良好だった【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	371	32.5
ややそう思う	493	43.2
どちらとも言えない	189	16.6
あまりそう思わない	56	4.9
まったくそう思わない	32	2.8
全体	1142	100.0



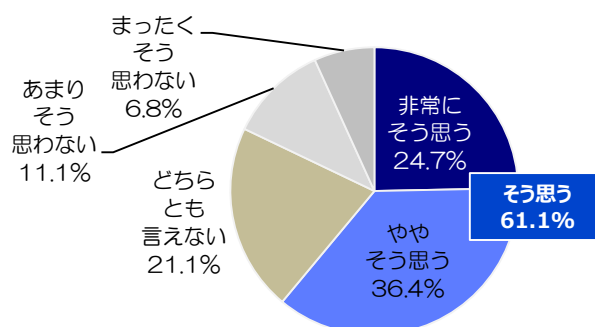
■ 大学での環境や、過ごし方： 時間にゆとりがあった【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	269	23.5
ややそう思う	450	39.4
どちらとも言えない	230	20.2
あまりそう思わない	130	11.4
まったくそう思わない	62	5.5
全体	1142	100.0



■ 大学での環境や、過ごし方： 課外活動・クラブサークルが充実していた【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	282	24.7
ややそう思う	416	36.4
どちらとも言えない	240	21.1
あまりそう思わない	127	11.1
まったくそう思わない	77	6.8
全体	1142	100.0



※グラフ中、5%未満は非表示

進路についての満足度と職業意識

卒業後の進路についても評価は高く、 8割が「進路や就職先に満足している」。

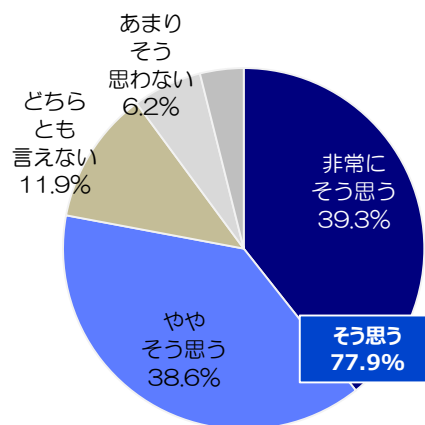
- ・「卒業後の進路や就職先に満足している」と答えた人が77.9%と高い評価。
- ・進路満足度に関係が深い「職業意識」は、2006の弊社調査（※）と比較すると向上している。
14年前の学生と比べて仕事を意識している人が増えているが、この変化は社会情勢の変化による影響が大きいものと考えられる。

※2006年弊社調査について
「13歳のハローワーク」公式サイト企画である「しごと観育成」研究会が、2006年12月～2007年1月に大学生および専門学校生 5163名を対象に「若者の仕事観に関する調査」を実施しました。同研究会は、(株)トップアスリートと(株)応用社会心理学研究所が共同で開催しています。

■ 2020年 卒業後の進路や就職先について満足している【単一回答】

※対象は回答者全体

	人数	%
非常にそう思う	449	39.3
ややそう思う	441	38.6
どちらとも言えない	136	11.9
あまりそう思わない	71	6.2
まったくそう思わない	44	3.9
全体	1142	100.0



■ 職業意識の醸成 2006年との比較

※2020年は3月時点で「就職する」と回答した人、
2006年は12月時点で「就職先が決まっている」と回答した人（大学生に限定）

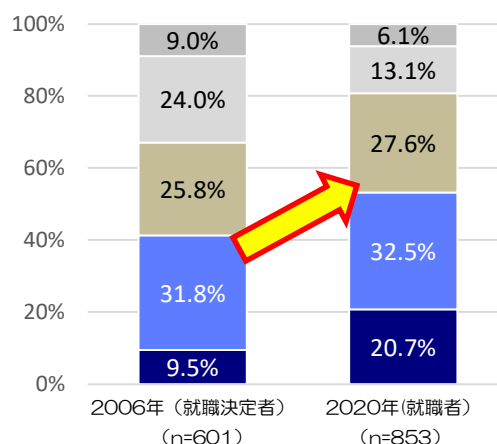
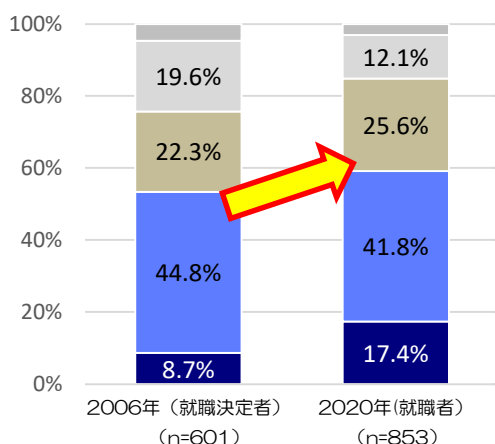
<直近の職業意識>

就職した後の仕事の内容や会社での様子がイメージできる

<中長期の職業意識>

5年後や10年後の、あなたが仕事している姿を思い描いている

■（非常に）そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



※グラフ中、5%未満は非表示

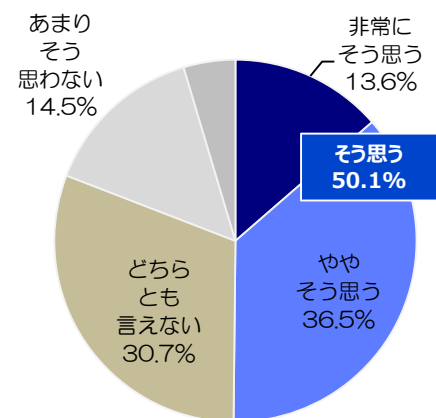
大学の教育についての評価

**本来、大学に求められるべき「教育」に対する評価は低く
卒業校が「教育の質が高い」と思う人は2人に1人。
「授業の進め方・教え方」も納得せず。**

- ・卒業校について「教育の質が高い」と思う人が50.1%、
また、「授業（進め方・教え方）が良かった」と思う人も52.4%にとどまり、2人に1人しか
大学の「教育」を評価していない。
- ・前述した学生生活や進路に対する満足度に比べ、大学の「教育」に対する評価は極めて低いと言えよう。

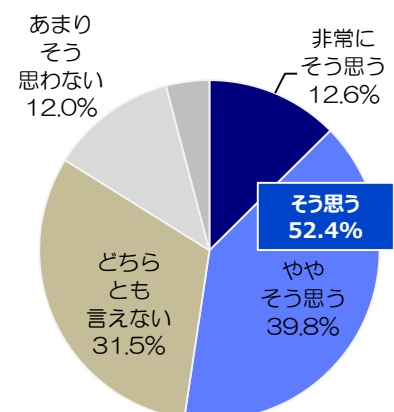
■ 卒業校の学校イメージ：教育の質が高い【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	155	13.6
ややそう思う	417	36.5
どちらとも言えない	351	30.7
あまりそう思わない	166	14.5
まったくそう思わない	53	4.6
全体	1142	100.0



■ 大学での教育： 授業（進め方・教え方）が良かった【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	144	12.6
ややそう思う	454	39.8
どちらとも言えない	360	31.5
あまりそう思わない	137	12.0
まったくそう思わない	47	4.1
全体	1142	100.0



※グラフ中、5%未満は非表示

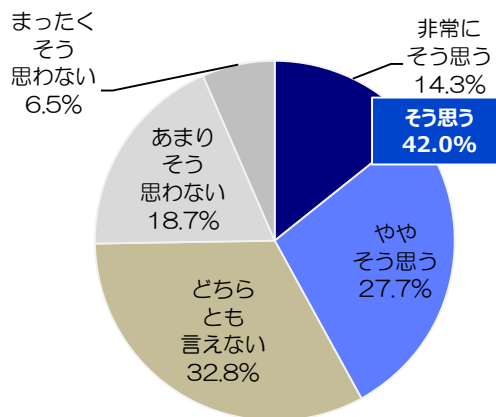
大学の教育についての評価（学生のモチベーション）

**学びへのモチベーションやコミットメントも不十分。
周りに「やる気のある学生が多い」はわずか4割。
時間やルールも守らず。**

- ・大学での学生生活について「『やる気』のある学生が多かった」という人は42.0%しかおらず、また「学生がルールや時間を守っていた」と思う人も45.1%と、いずれも半数以下。
- ・学業を中心とする大学での活動に対するモチベーションやコミットメントは、不十分といえよう。

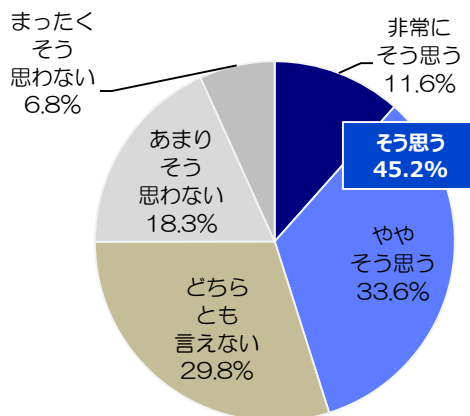
■大学での学生生活： 「やる気」のある学生が多かった【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	163	14.3
ややそう思う	317	27.7
どちらとも言えない	374	32.8
あまりそう思わない	213	18.7
まったくそう思わない	75	6.5
全体	1142	100.0



■大学での学生生活： 学生は時間やルールをきっちり守っていた【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	132	11.6
ややそう思う	383	33.6
どちらとも言えない	341	29.8
あまりそう思わない	208	18.3
まったくそう思わない	78	6.8
全体	1142	100.0



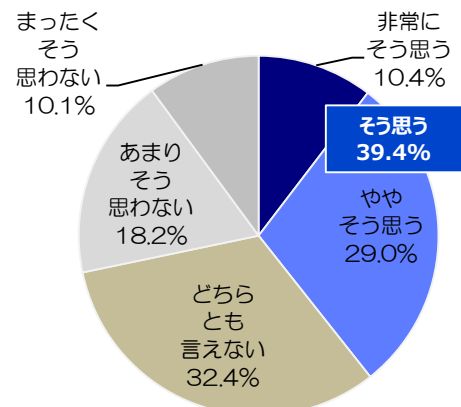
大学の教育についての評価（産学連携）

**社会と連携した教育についても納得していない。
「企業と連携した取り組み」を評価する人は4割に満たず。**

- ・大学と産業界の連携強化が求められて久しいが、実際の教育内容については社会とのつながりが必ずしも十分ではない。
- ・「インターンシップや企業と連携した取り組みが良かった」との評価は4割に満たず、「社会で役立つような実践的なカリキュラム」を受けられた人も約5割にとどまる。

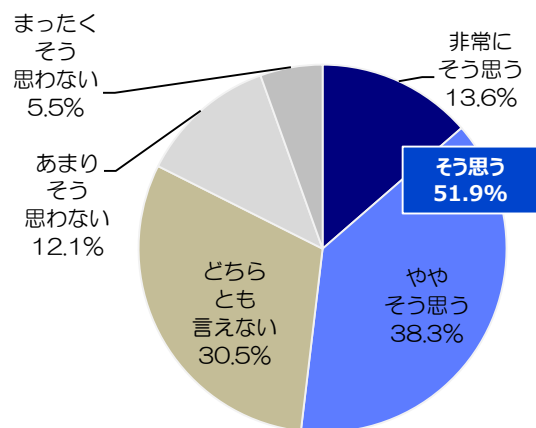
■大学での教育： インターンシップや企業と連携した 取り組みが良かった[単一回答]

	人数	%
非常にそう思う	119	10.4
ややそう思う	331	29.0
どちらとも言えない	370	32.4
あまりそう思わない	208	18.2
まったくそう思わない	115	10.1
全体	1142	100.0



■大学での教育： 社会で役立つような実践的なカリキュラムだった [単一回答]

	人数	%
非常にそう思う	155	13.6
ややそう思う	437	38.3
どちらとも言えない	349	30.5
あまりそう思わない	138	12.1
まったくそう思わない	63	5.5
全体	1142	100.0



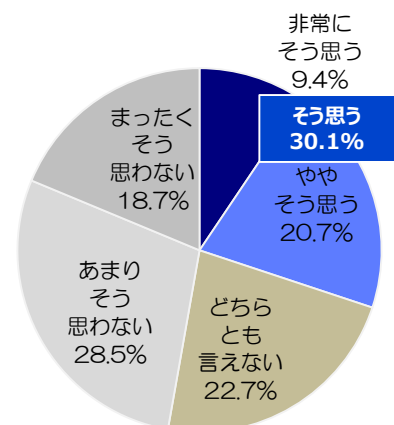
大学不適應

**大学不適應を起こしていた人も相当数いる。
3人に1人が「雰囲気は自分と合わなかった」、
5人に1人が「辞めようと思うことがあった」。**

- ・大学での学生生活について「大学の友人やクラスの雰囲気はある自分とは合わなかった」と回答した人は30.1%、また、「学校を辞めようと思うことがあった」と回答した人は21.7%であった。
- ・大半が「学生生活は楽しかった」が、一方で、過去に退学傾向や大学不適應を起こしていた人は相当数いるものと思われ、見過ごせない問題である。
教育内容の改善とあわせて今後の対応が求められる。

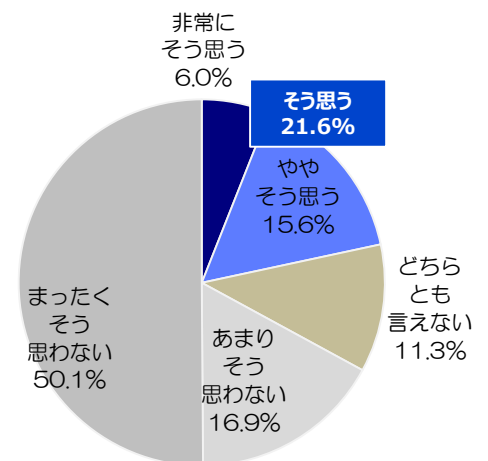
■大学での学生生活：大学の友人やクラスの雰囲気は自分とは合わなかった【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	108	9.4
ややそう思う	236	20.7
どちらとも言えない	259	22.7
あまりそう思わない	325	28.5
まったくそう思わない	214	18.7
全体	1142	100.0



■大学での学生生活：学校を辞めようと思うことがあった【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	69	6.0
ややそう思う	179	15.6
どちらとも言えない	129	11.3
あまりそう思わない	193	16.9
まったくそう思わない	572	50.1
全体	1142	100.0



大学の教育方針への理解・共感

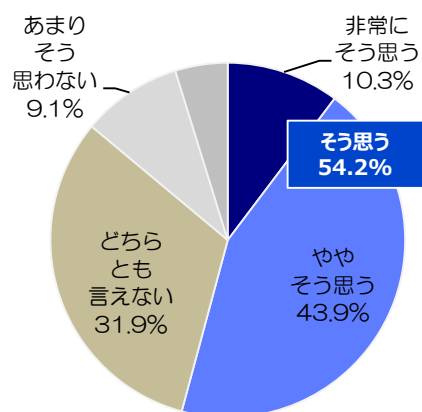
大学の教育方針に対する理解や共感は、 まだまだ十分とは言えない。

- ・大学教育の質的転換を図るため、各大学は自らの教育理念に基づく充実した教育活動を展開すること、また、教育改革を行う上で3つのポリシーの策定と運用が重要であると言われている。
- ・しかしながら、「大学の方針・理念に共感できる」が54.2%、また、「3つのポリシー」については「知っている」がいずれも4割前後と、まだまだ浸透していないことがわかる。

※ 3つのポリシー：入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

■大学の教育方針・理念に共感できる【単一回答】

	人数	%
非常にそう思う	117	10.3
ややそう思う	501	43.9
どちらとも言えない	364	31.9
あまりそう思わない	104	9.1
まったくそう思わない	55	4.8
全体	1142	100.0



※グラフ中、5%未満は非表示

■3つのポリシーの内容を知っている【単一回答】

